

箱 根 山

○ 火山活動評価：静穏な状況

9月から11月にかけて一時的な地震増加が繰り返されましたが、その他の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過しました。

○ 概況

・噴気などの表面現象や熱の状況（図1、図2）

2月、5月及び10月に繰り返し実施した現地調査では、大涌谷及びその周辺での噴気などの表面現象や地表面温度分布¹⁾には、昨年までと比べて特段の変化はありませんでした。

2001年群発地震活動直後、大涌谷北側斜面の沢沿いに出現し、上湯場に移動拡大した噴気地熱帯では、県道上の亀裂や側溝等から弱い噴気が上がるなどの状況が現在も続いていました。

1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

・地震や微動の発生状況（図3、図4）

9月から11月にかけて、駒ヶ岳付近や大涌谷付近の浅い所を震源とする火山性地震の一時的な増加が繰り返されました。最大地震は11月18日に発生したマグニチュード²⁾ (M) 2.5でした。これらの活動により、箱根町湯本で震度1を4回観測したほか、震源に近い箱根町強羅や元箱根では体を感じる揺れや地鳴りが何度かあった模様です。

箱根山では2001年6月から12月にかけて、駒ヶ岳周辺を震源とする活発な地震活動（最大地震 M2.8）があり、その後も年に1回程度の割合で一時的な地震の多発を繰り返しています。

上記以外の期間は、地震の発生回数は少なく静穏に経過しました。

2) マグニチュード (M) は地震の規模を表します。資料中のMは一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

・地殻変動の状況（図5）

気象庁の体積歪計³⁾ や神奈川県温泉地学研究所の傾斜計⁴⁾ による地殻変動観測では、9月から11月にかけて繰り返された地震活動に関連する特段の変化はありませんでした。

国土地理院のGPSによる地殻変動観測によると、2006年8月頃から箱根山を挟む基線で、深部での変動を示すと考えられるわずかな伸びがみられていましたが、12月頃には鈍化しました。

3) センサーで周囲の岩盤から受ける力による体積の変化をとらえ、岩石の伸びや縮みを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により変化が観測されることがあります。

4) 地面の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの注入等により変化が観測されることがあります。

○ 火山情報の発表状況

火山情報の発表はありませんでした。

※ この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、独立行政法人防災科学技術研究所及び神奈川県温泉地熱研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用しています (承認番号：平 17 総使、第 503 号)。

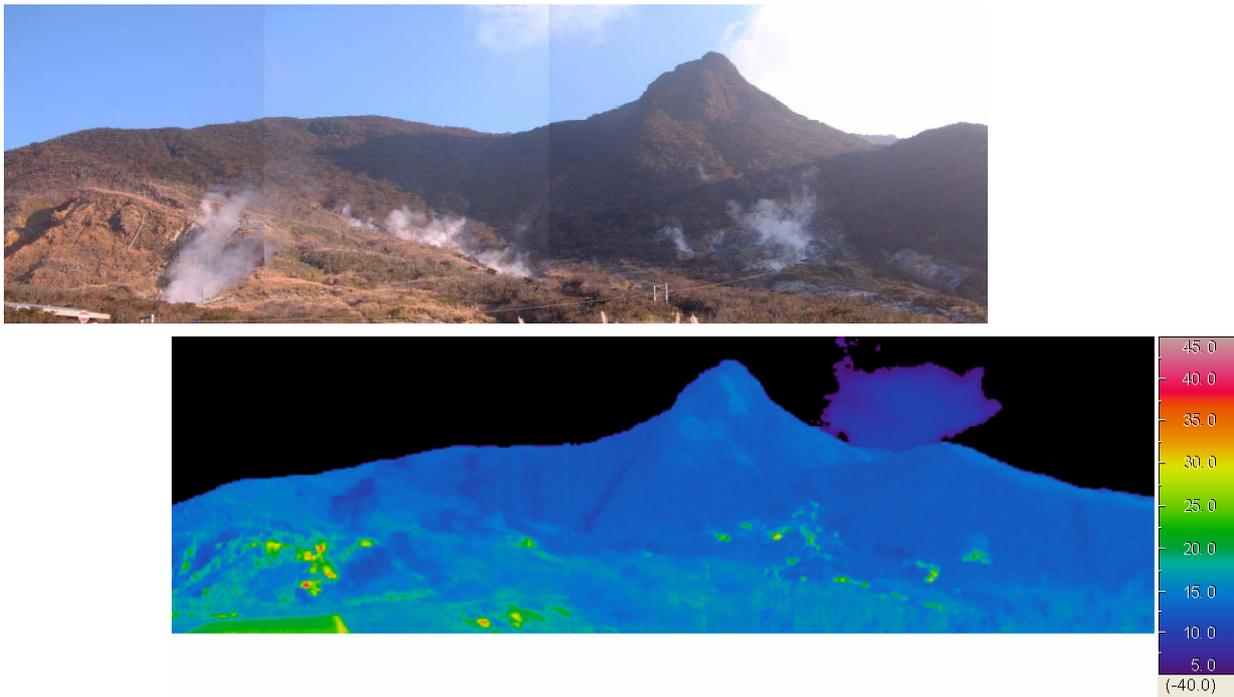


図 1 箱根山 大涌谷全景（上段）と大涌谷全体の地表面温度分布¹⁾（下段）（10月19日撮影）

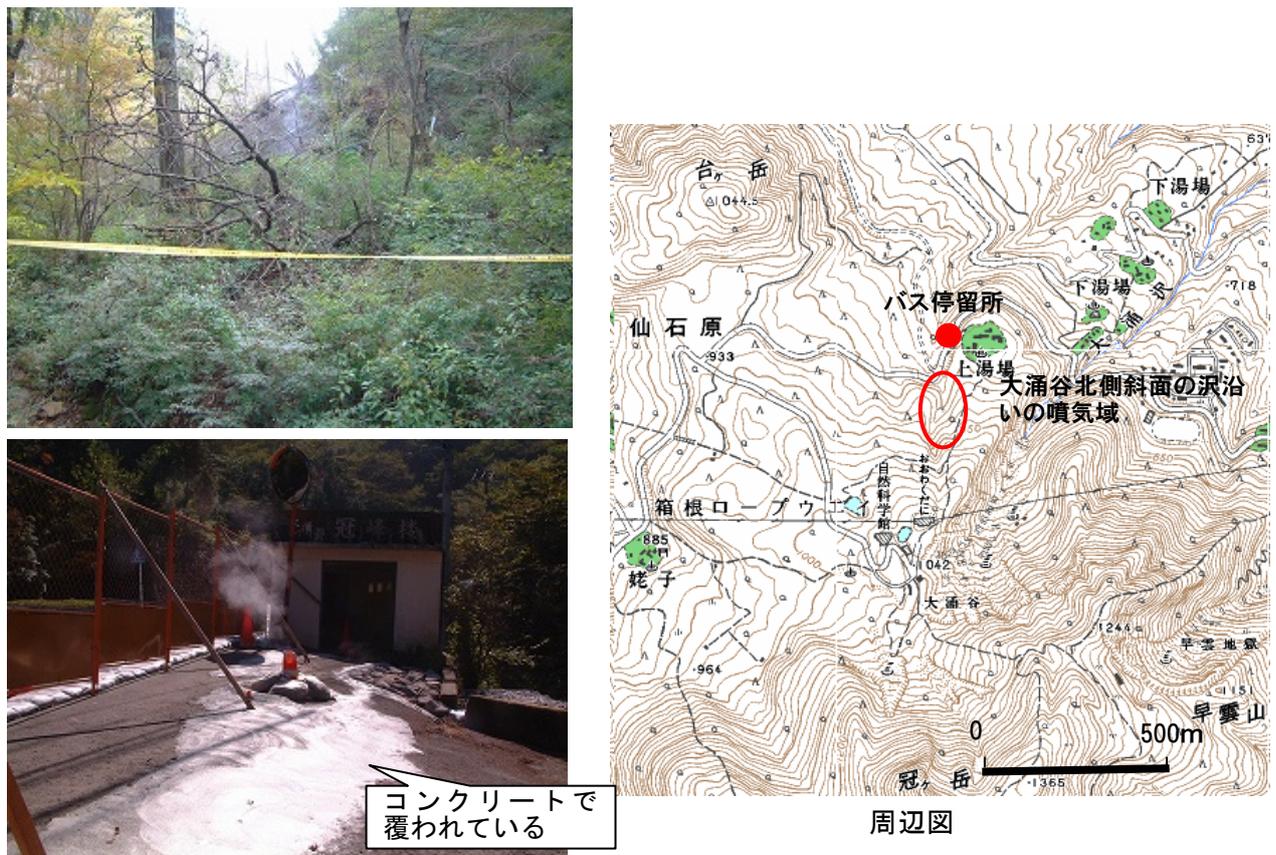


図 2 箱根山 大涌谷北側斜面沢沿いの噴気地熱域（左上の写真、周辺図の赤円内）及び上湯場バス停付近の噴気の状態（左下の写真、周辺図の赤丸）（10月19日撮影）

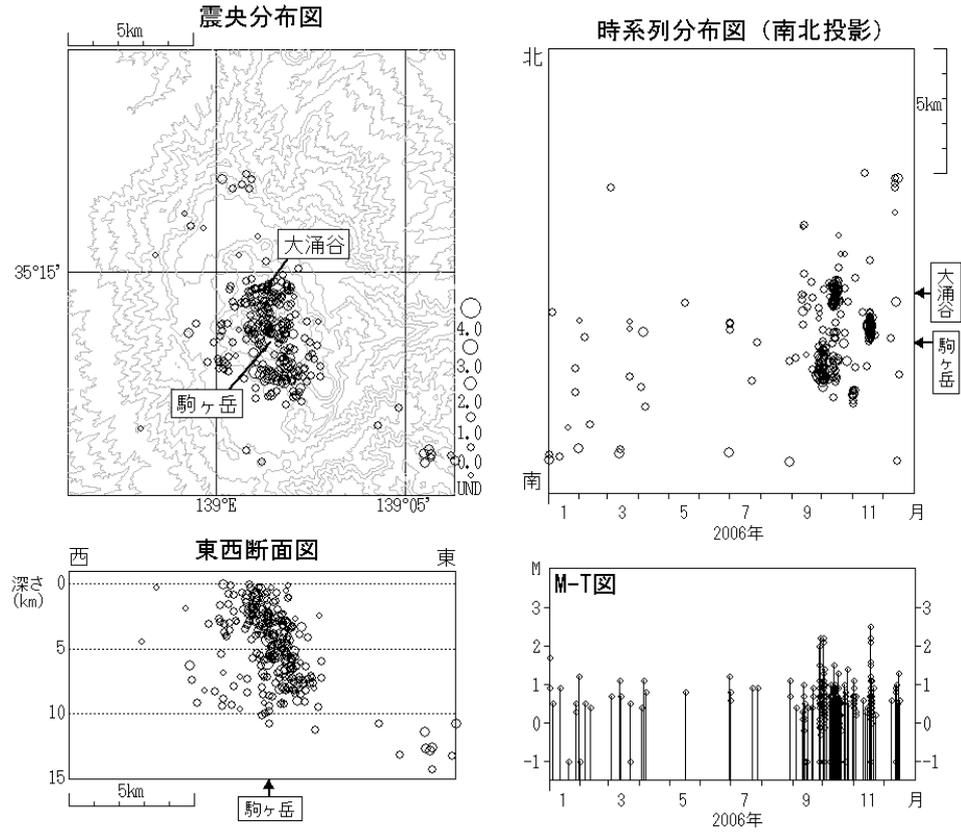


図 3※ 箱根山 地震活動経過²⁾ (2006 年 1 月 1 日～2006 年 12 月 31 日)

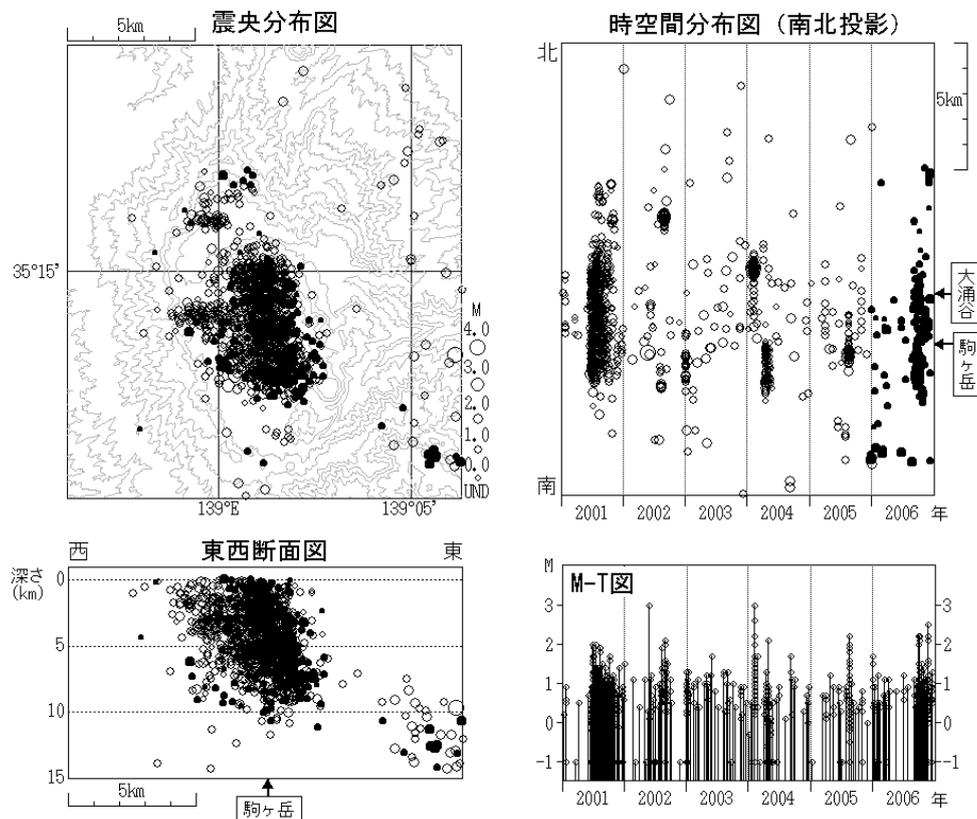


図 4※ 箱根山 地震活動経過²⁾ (2001 年 1 月 1 日～2006 年 12 月 31 日)

